

河川砂防技術研究開発公募 地域課題分野（砂防）

令和5年度採択テーマ

事後評価結果

研究テーマ名	研究代表者	総合評価
流木及び細粒土砂の流出過程を考慮した二次元土砂・洪水氾濫解析モデルの高度化 (研究期間：R5 年度～R7 年度)	京都大学防災研究所 特定教授 竹林洋史	B
<研究概要> 2011 年に土砂・洪水氾濫が発生した那智川流域を対象として、現地観測、水路実験で得られた知見を用いて、流木の橋梁への集積・氾濫現象と細粒土砂の流出過程・プラントルの第一種二次流などを考慮した平面二次元河床変動シミュレーションモデルを構築するとともに、2011 年に那智勝浦町井関で発生した流木の集積及び土砂と水の氾濫現象に適用し、効率的・効果的な土砂・洪水氾濫対策を検討する。		
<事後評価コメント> 本研究では、橋梁における流木捕捉モデルなど、複数のモデルを導入して、モデルの高度化を実現しようとしている点は評価出来る。 しかし、構築されたモデルがどのくらい実現象を再現できているかの検証が不十分、もしくは、判断が難しいところがあるので、今後さらに検討していただきたい。		

※評価基準

A：研究目的は達成され、十分な研究成果があった

B：研究目的は概ね達成され、研究成果があった

C：一定の研究成果があった

D：研究成果があったとはいえない